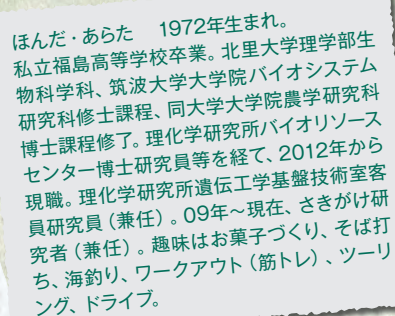
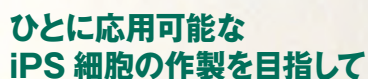


ウサギでひとの 再生医療に挑む



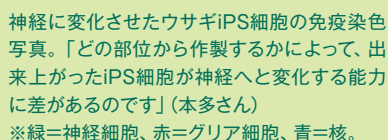
本多 新 テニユアトラック准教授



ES細胞やiPS細胞は、ひと、マウス、サル、ブタなどから樹立されています。それらの細胞の研究から、ES細胞やiPS細胞のタイプはヒト型とマウス型に大別できます。ヒト型のiPS細胞は、マウス型に比べて増殖が遅く、遺伝子導入や組換えなどの操作が難しいのですが、今後想定している再生医療へ応用するために、ヒト型の細胞で研究を行おうと考えました。

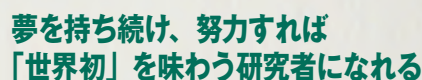


多くのiPS細胞研究者がマウスを使う中で、私はウサギを使って再生医療を目的とした安全なiPS細胞を作製する研究



配管工時代、
若き日の本多さん。

世界中が注目するこの分野で、誰も見たことのない新しい事実を発見する瞬間が味わえるのは研究者冥利に尽きます。JSTさきがけiPS細胞領域の一員として、これからも超一流の仲間たちから刺激を受けながら、新たな可能性を切り開いていきたいと思います。



私はよく学生みなさんに、自身の体験を交えながら「学校の成績なんて関係ない。本気になれば世界と戦える研究者にだってなれる。多少の回り道やつまずきなんてどうにでもなるんだ」と話します。夢を実現させるには、自分の可能性に気づき前向きに挑み続けることが大切です。最大の敵は自分に「粹」をはめてしまう自分自身です。周りに流されず、自分の信じる道を進んでいけば、仮に道は異なっても明るい未来が待っていると信じています。学生みなさんには「キミたちの可能性は無限なんだ!」と伝えていきたいと思います。

●本多さんの詳しい研究内容を知りたい方はこちらへ
<http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/maruhon/index.html>
<http://www.riken.go.jp/f-world/research/results/2010/100806/index.html>

TEXT: 紙谷清子 / PHOTO: 熊谷美由希